

## あめりかを廻って

惣 津 律 士

8月24日に羽田空港を出発して、25日サンフランシスコ経由、ロスアンゼルスに到着しました。そこに本拠を一応おいて、ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、テキサス、ユタ、ミズリー、ウィスコンシン、イリノイ、アイオワ、ニュージャージーの各州の主な乳牛牧場を見て、ホルスタイン及びジャージー種牝牛各1頭を購入し、10月18日サンフランシスコ出航の日本郵船熱海丸に乗船して2頭の牛の管理をしながら11月3日横浜に帰って参りました。何分にも広大な国であり、限られた日程の旅のため、殆んど飛行機を利用し、日曜、祭日もない忙しい旅を続けましたが、幸いに天候にめぐまれ又あめりかの関係者の心からの協力に依って目的を達し得たことを喜んでおります。

訪れた牧場は有名な種畜生産牧場でありまして、日本にも充分に知られているものが大部分でしたが、私の購買しましたホルスタインはアイオワ州デモイン郊外のギルスブラザース牧場育成のもので、日本購買は最初である関係から御存知のない方が多いと思います。

毎年種畜購買で渡米される方々が、選択に大変御困りであることを私としても充分体験した訳です。牝牛は選択淘汰が充分に行われている関係から、優良なものを各牧場で見ましたが、育成種牝牛となると5-6ヶ月の若令のものにはよいものが見受けましたけれども、2才ものとなると売れ残りが多く、よほど日数をかけて歩かない限り、極めて困難であることをしみじみと感じました。私の買いました牛は1952年パプスト牧場生産のパプスト、ウオーカー、コバークで、父はさきに新冠種畜牧場の牧野場長御購買のパプスト、ローマー、デイーン、ウオーカー、ラッドで1956年のレザーブ、オール、アメリカンを獲得して居るエキセレント級の牛です。このコバークの生産牝牛のウオーカー、バーク、アドリンは1956年のレザーブ、ジュニア、オール、アメリカンで本年のウオーターロー共進会で1等賞を獲得して居ります。尚コバークの母の父は有名なパプスト・コメットであり、母の妹がウオーターローの本年の共進会で4才牛の最高位を獲得し

て居ります。(アメリカのホルスタイン雑誌ウオードを御覧になると解ります)

目下津山の酪農試験場に繋養中であります。

ジャージー牛は生後10ヶ月のもので、カリフォルニア州マーセッド市郊外のサンシャイン牧場生産のものであります。この父は同牧場自慢のスターダスト、ブロニス、ヒールペール、デザインで、私はこの若牛に将来の期待をもって居ります。

ジャージー牧場は農林省岩手種畜牧場の菊池場長と御一緒に随分歩きました。ニュージャージー州の有名なマール牧場はもとより、テキサスのビクトリー農場、ミズリー州のオザーク学校の附属農場、さてはオレゴン州のロンオーク、サニーリー、リンドー等の牧場の優秀牛を見廻りまして、アメリカジャージーの大要をつかんだ事を喜んでおります。

シアトル市郊外のカーネーション牧場には8月30日に参りました。昭和10年にこの牧場を訪れた時よりも施設が充実しており、体格の大きい牝牛が畜舎にたくさん繋養されて、支配人フェイファー氏の自慢話を聞きました。どなたも写真で御承知の功労牛セジス、ピーターチェ、プロスペクトの像は前回同様に印象的でした。

勿論私はウィスコンシン州のミルオーキー近くのバーク系の元祖であるパプスト牧場を訪れたのですが、ここの牝牛もよく揃って、乳房の型も概ね良好でした。

御存知の如く、アメリカ乳牛全頭数の約8割がホルスタイン種及び系種でこれ等はミシシーピ河上流の諸州に集中し、次いで東部及び西部等の大都市附近に発達して居ります。

原料乳地帯と市乳地帯では経営の内容が随分ちがって居ります。私の訪れたロスアンゼルス郊外のエドアー牧場は用地500エーカーに2,100頭の乳牛を繋養して、ルーサン乾草はもとより濃厚飼料も全部購入し、立派な搾乳舎もクリーマリーをもち、一度に250頭の搾乳を機械でやっているのはまさに壯観でした。

原料乳地帯では家族労働力に依る経営が多く、普通20乃至30エーカーの農場で搾乳を10-20頭もつ

## 岡山畜産便り1957.11・12

て牛乳と穀物の販売に依って生計をたて、種牡牛は人工受精所に依頼して居ります。私の購買しましたギルス・ブラザーズ牧場は350エーカーの土地に65頭（内搾乳牛30頭）飼育し、15エーカーのアルファルファ生産畑をもって自給に努め、立派な農機具を備えて居りました。勿論牛乳の冷却装置をもって居る事は他の牧場同様です。カーネーション・パブスト牧場となると会社組織の一流牧場で、我国では一寸想像の出来ない規模を以って活躍して居ることは申上げるまでもありません。

アメリカの牧場の牛を見てだれしも感ずることは一般に乳房の形のよい牛が多く、後軀がよくて体積が出来ている点でしょう。質に於ては日本の牛は必ずしもまけて居りませんが、彼等が楽に搾り、楽に管理して、その牛の一生涯の泌乳能力に重点を置いて、健康長寿な牛を造成している点は見のがす訳に参りません。粗飼料の生産獲得にはどこの牧場でも一生懸命です。乾草がヘイベイラーに依って畑で圧搾収穫されて、極力人手が省かれて立派なものが造られています。勿論気象及び土地条件もヘイの調整には好適でしょうが、畑から直接牛舎に収容されている乾草は立派な乳牛の作成に貢献する事は明かです。

放牧地は地方に依って異っていますが、アルファルファ、ラジノクローバー、ブルームグラス、ニュージールランドフオホワイト、オーチャードチモシー、スーダングラス等の混播でした。

ミゾリー州で聞いた所に依るとジャージー牛1頭の放牧地面積は灌漑した土地で2分の1エーカー、灌漑しない所で2エーカーと言って居りました。

サイロ用にはデントコーンが栽培され、特にウィスコンシン、イリノイ、アイオワ州では数多くのタワーサイロが見受けられ、宛も北欧の牧場の写真の感がありました。

トレンチサイロも普及している事は勿論です。これはカリフォルニア州で聞いたのですが、この方が経費が安くてすむとの事で、その喰わし方も極めて合理的にやって居ります。

アルファルファ乾草栽培はどこでも乾季にはイリゲーションを行って集約的にやって居ります。この乾草が乳牛はもとより全米の肉牛の増産に貢献してなる事は身のがす訳に参りません。よきヘイはよき牛を

造る事実を先進国でまざまざと見せつけられた次第です。

アメリカの畜産は年と共によりよい方向に変化しつつあります。過去10ヶ年間の畜産物の生産量を見ますと、牛肉が8割、鶏肉が2倍強（ブロイラーの発達に依る）ミルクが2割、卵が7割と言う増産振りで、経営は漸次集約化されつつあり、例えばテキサス州の綿作地帯に、近時肉牛の肥育、乳牛及びブロイラーの普及がめざましいものがあります。

農場経営者は自己の農場の経営上全般に亘って熟練した技術をもっと共によき経営者であるばかりでなく、よきビジネスマンであるように心掛け、国内市場はもとより海外市場の状況に細心の注意を払って居ります。

進路の発達はずばらしい限りです。自動車が日本の自転車以上に各家庭に利用されている彼地では、皆が、道路の整備に一生懸命になるのは当然でしょう。各州共自分の州の産業発達のために競って立派な道路の建設に努力して居り、一面、これが酪農業の進展に著しい貢献をして居ります。精液の供給にしても、集乳にしても、短時間に変質することなく行われて居る点はうらやましい限りです。

アメリカの種牡牛には、中に性質の荒いものを見受けましたが、概して温順です。繫牧をさげ、牛舎も広く、運動場も充分に取って、その中に放し飼いで居りますが、他面受精の問題を忘れることが出来ません。私の購買したコバークは極めておとなしく、従って船中の管理も容易でした。おとなしくて、強健で、而も遺伝力の強い種牡牛こそ私達の最も要望するものでありまして、コバークはそれに充分に答えて居ります事を私は誇り度いのです。

アメリカの旅は1日とて不愉快な事はありませんでした。乗物にしても、ホテルにしても、牧場に於ても接した人々は心から私の旅行によき援助を与えてくれました。新しい友があめりかに出来た事を私は喜んで居ります。

日本の酪農関係者がどんどん渡米されて、彼地の事情をのみこみ、牧場主達と両国の産業の発展のために話し合う機会を作られる日の早からん事を祈って拙文を擱筆します。